

し一九四四年新艦完成の曉には兩洋艦隊が完成し日本に一大致命傷を成るであらう、若し日本が安南に於て輕舉盲動すれば米國は實力を以て日本制裁を發動するやうに成るのである。

一、十三日重慶附近の空中戦で中國空軍は機動戰術で日本軍六機を落し凱歌を上げた、中央社發によると、日本軍機は重慶を空襲したが中國空軍の出現でガソリンの不足に惱み遁走し様として居る處を二十分に亘る空中戦に成り六機を完全に撃墜したのである。

外國宣傳情報第五號

內閣情報部九・一六

一重慶日本語放送（十五日）

（東京市遞信局聴取）

一、松岡が外相になつてから駐外使節の大異動を行つたが、今度建川が駐ソ大使に西が駐ソ公使に任命されたが、之は普通の人事行動と認められぬ、之には明かに陰謀が含まれて居るのである、その内容は露聯を愚弄し東亞の覇權を握らうと云ふのである、日本は十數年來之を續けて來たのであつて先づ朝鮮、中國を侵略更にロシアを活用せんとした、朝鮮は日本の意の儘となつたが、中國に對しては目的を達するを得ず、ロシア活用に至つては樺太の半分以外收獲はなかつた、日清戰爭の際遼東半島は三國干渉で返還せざるを得なかつた、今度蘆溝橋事件で中國を征服せんとして來た、張登峰、ノモンハンで重大損害を受けた、露聯の存在は中國を征服し東亞の覇權を握るのに邪魔である、そこでシベリヤ沿海州を活用の大野心を抱くに至つたのである、露聯は一九一七年大革命が起り有らゆる國際條件の破壊を宣告したので中國を愚弄し以て露聯の侵攻を企てて來た、大體日本軍閥は久しく反露を目標として來た、田中義一の出兵が之で、中國には國民政府の中國統一以來最後の一策として中國戰爭を發動した、然るに中國の抗戦から露聯愚弄を計略して來たのである。

建川は陸軍の右傾派で軍閥の發端思想を十二分に抱いて居るもので今回の露聯行の任務は軍

188

事探偵がその一、露聯を愚弄し日本の陥害に陥れ様とするのがその二である、日本は十數年來中國を愚弄し露聯侵攻を企てその目的を達せざる以前に中國の抗戦に逢ひ、中國抗戦で歐洲大戰の廢物と化した、歐洲大戰は東亞霸權掌握の絶好のチャンスにも拘らず、日本は手足を縛られて居るからである、そこで露聯愚弄の計畫を考へた、東亞の霸權には露聯の存在は障害であるからその障害を除去せんとするのである、中國の征服は不可能で武力屈服は出來ないからである、

建川を駐露大使に任命したのは次の二つの妄想からである、その一、不可侵條約の締結、第二、露聯を誘導して中國を共同寇分する、併し之は不可能である、第一不可侵條約の締結は表裏共に一致しなければならぬ、侵略の必要ない時に之を力説するだけでは駄目であり、不可侵條約成立の條件は一もない、日露間の状況は、露聯は日本の侵略を少しも恐れず、日本にも亦露聯侵略の力量はないのである、たとへ侵略してもノモンハンの如く成るのは必然である、日本は言論と行動とは一致しないで全然露聯である、であるから日露不可侵は成立しない、第二に、露聯の中國抗戦観からして、三年來露聯は中國に同情を寄せて居り、之は而も露聯の國策に一致して居る、その二つの妄想は不可能であると断言する事が出來るのである

一、日本が安南に入る場合米國は斷乎たる態度に出るのであらうとされて居り、ワシントン情報としてハノイ發UP電の如きもので日露露聯は停戰状態に陥つて居り、日本が安南に侵攻しても外交上軍事上重大困難に陥つてあらうとされて居る、即ち外交上では佛、露聯、米が

反對し、獨逸當局としても佛に對し日本の要求反對を要求して居るからで、或種の默契は成立して居るかも知れぬがこの状態では日本は重大損害を被るであらう、それに安南は山嶽が多く鐵道は少く、中國も抗戦を決意し、米國も安南に深甚な注意を拂つて居ることはハル長官の聲明にある通りである

一、日本調査委員は安南方面を百餘名で軍事、經濟状態を視察して居り日本の意圖が看破されて居る

一、米國海軍大演習を終え十四日ホノルルに歸還した海軍長官は往訪の記者に軍備強化を計り太平洋の防備を鞏固ならしめなければならぬと語り、又ヘラルド紙も日本を實力で制裁しなければならぬと説いて居り米國の對日強硬態度として注目されて居る

